

# 実 技 試 験

☆☆☆解答に当たっての注意事項☆☆☆

- ・ 試験問題については、特に指示のない限り、平成23年10月1日現在施行の法令等に基づいて解答してください。
- ・ 次の各問について答えを1つ選び、その番号を解答用紙にマークしてください。

【第1問】下記の（問1）、（問2）について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング業務を行うに当たっては、関連業法を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー（以下「FP」という）の次の行為のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 税理士資格を有していないFPが、無料相談会において、相談者の個別具体的な納税額計算などの税務相談を行った。
2. 生命保険募集人の登録をしていないFPが、変額個人年金保険の一般的な仕組みについて顧客に説明した。
3. 投資助言・代理業の登録をしていないFPが、特定の上場会社が公表した業績予想を顧客に提示した。

問2

下記は、山田さんの家庭のキャッシュフロー表（一部抜粋）である。このキャッシュフロー表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用することとし、計算結果については万円未満を四捨五入することとする。

<山田家のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1年	2年	3年
西暦(年)			2011	2012	2013	2014
平成(年)			23	24	25	26
家族・年齢	山田 栄太郎	本人	56歳	57歳	58歳	59歳
	和美	妻	55歳	56歳	57歳	58歳
	勇樹	長男	26歳	27歳	28歳	29歳
	莉子	長女	24歳	25歳	26歳	27歳
ライフイベント		変動率		海外旅行	長女結婚	
収入	給与収入(夫)	1%	690			(ア)
	給与収入(妻)	—	98	98	98	98
	収入合計	—	788			
支出	基本生活費	1%	387	391	395	399
	住宅関連費	—	103	103	103	103
	生命保険料・損害保険料	—	57	57	57	57
	一時的支出	—	0		300	
	その他支出	—	50	50		
	支出合計	—	597			
	年間収支	—	(イ)	80		
	金融資産残高	1%	726	(ウ)		

※家族の年齢は各年12月31日現在のものとし、平成23年を基準年とする。

※記載されている数値は正しいものとする。

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。

1. 空欄(ア)に入る数値とその求め方： $690 \times (1 + 0.01)^3 = \underline{711}$
2. 空欄(イ)に入る数値とその求め方： $(788 - 597) \times (1 + 0.01) = \underline{193}$
3. 空欄(ウ)に入る数値とその求め方： $726 \times (1 + 0.01) + 80 = \underline{813}$

【第2問】下記の（問3）～（問5）について解答しなさい。

### 問3

下記は、経済用語についてまとめた表である。下表の経済用語に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

経済用語	主な内容
(ア)	資金が必要な国や企業が自ら債券等を発行して、投資家から資金を調達する仕組みのこと。
(イ)	一般消費者が購入する商品やサービス価格の動向を調査した指数で、総務省が発表している。
(ウ)	景気の現状把握および将来予測に資するために作成された指標で、内閣府が発表しており、「先行指数」、「一致指数」、「遅行指数」の3つの指数がある。

1. 空欄（ア）に入る用語は、「間接金融」である。
2. 空欄（イ）に入る用語は、「企業物価指数」である。
3. 空欄（ウ）に入る用語は、「景気動向指数」である。

### 問4

下記は、投資信託の用語についてまとめた表である。下表の投資信託の用語に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

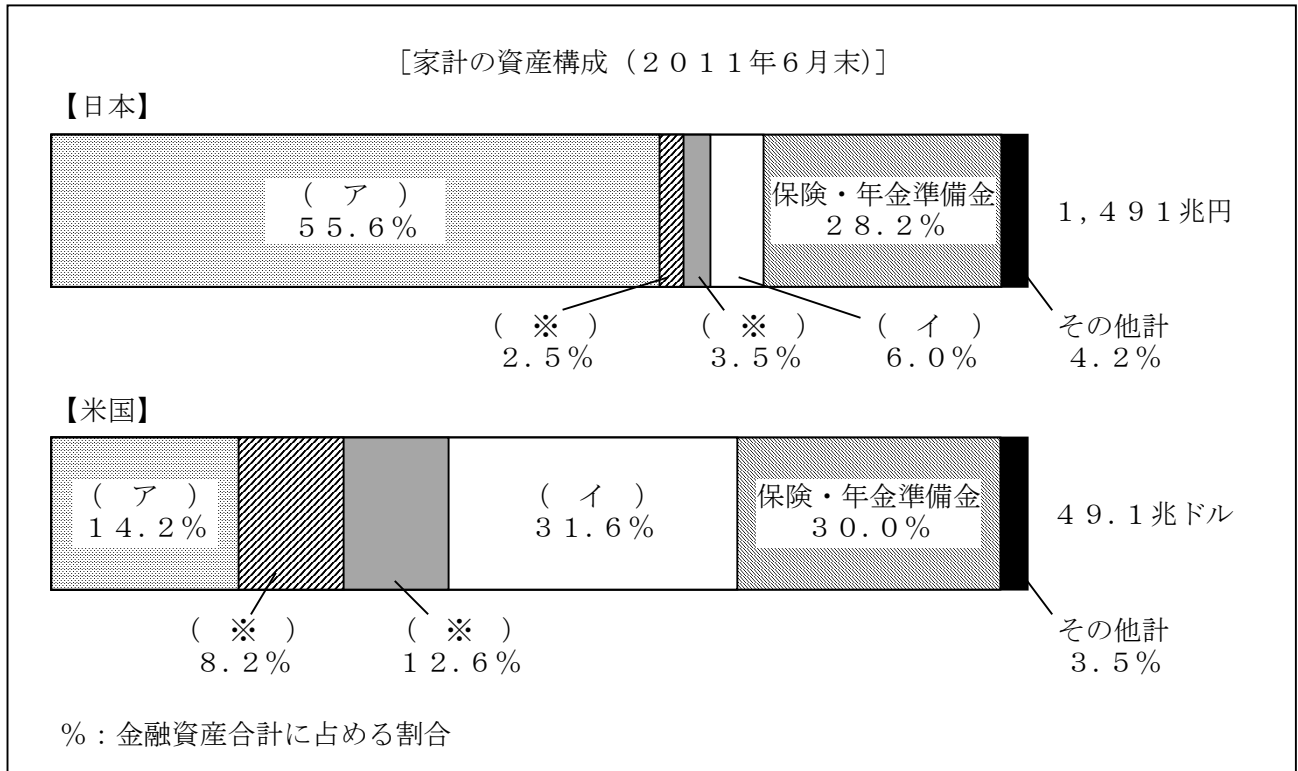
投資信託の用語	用語の説明
(ア)	ファンドの基本的な概要や投資方針などが記載されている書面のことで、投資信託委託会社が作成する。投資信託を募集・販売する際には、投資家に必ず交付しなければならない。
(イ)	投資信託の時価のこと。純資産総額を受益権総口数で割ったもので、投資信託委託会社が算出する。通常は1万口当たりで示される。
(ウ)	投資信託の運用や管理の対価として、信託財産から日々差し引かれる費用のこと。

1. 空欄（ア）に入る用語は、「交付目論見書」である。
2. 空欄（イ）に入る用語は、「基準価額」である。
3. 空欄（ウ）に入る用語は、「信託財産留保額」である。

問5

日本と米国の家計の資産構成に関する下記<資料>の空欄(ア)、(イ)にあてはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。なお、問題作成の都合上、一部(※)としてある。

<資料>



(出所)「資金循環の日米欧比較」日本銀行調査統計局(2011年9月27日付)より一部抜粋

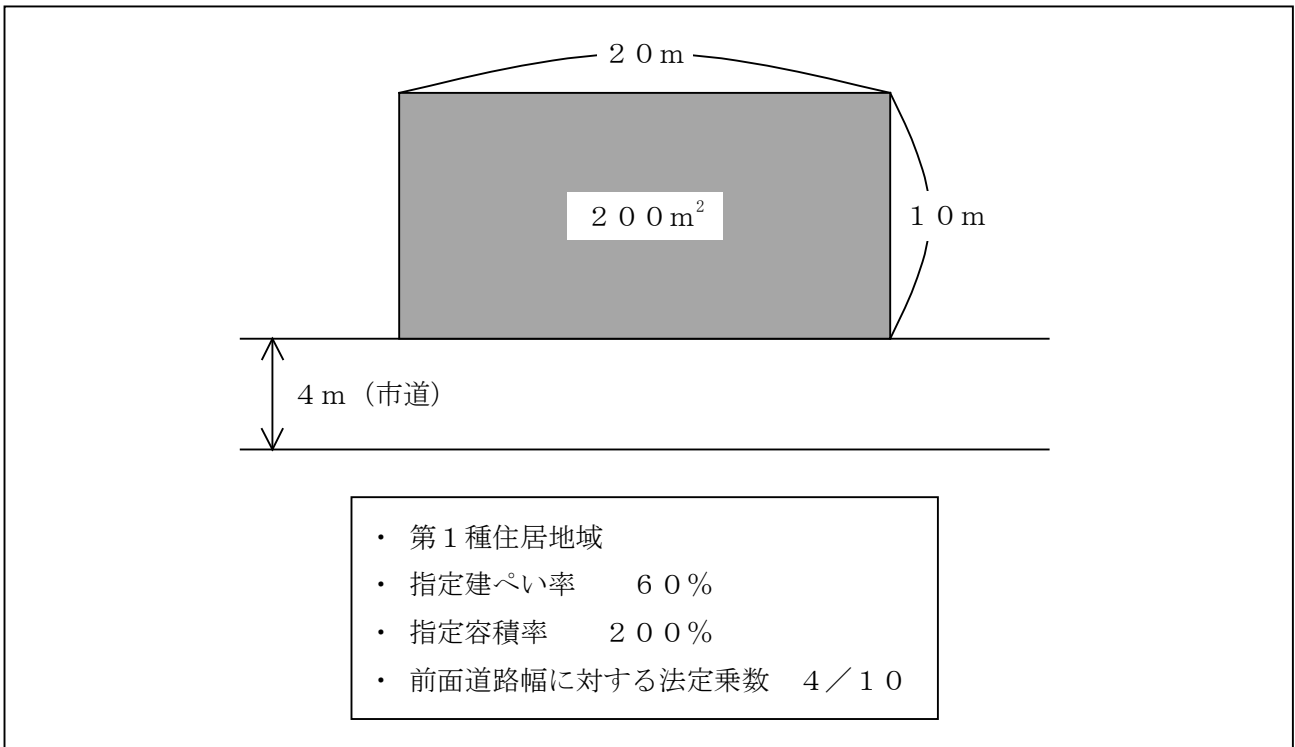
1. (ア) 現金・預金      (イ) 株式・出資金
2. (ア) 株式・出資金    (イ) 現金・預金
3. (ア) 債券            (イ) 現金・預金

【第3問】下記の（問6）、（問7）について解答しなさい。

問6

建築基準法に従い、下記<資料>の土地に建築物を建築する場合、建築可能な建築物の延べ面積（床面積の合計）に関する次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については、一切考慮しないこととする。

<資料>



建築物の延べ面積（床面積の合計）を算出するに当たっては、（ア）を用いる。本問では、前面道路幅（4 m）に法定乗数4/10を乗じた数値（160%）と（イ）の数値を（ア）とする。

1. （ア）建ぺい率 （イ）指定建ぺい率60%のうち、いずれか小さい方
2. （ア）容積率 （イ）指定容積率200%のうち、いずれか大きい方
3. （ア）容積率 （イ）指定容積率200%のうち、いずれか小さい方

### 問7

下記<資料>に基づき、居住用の土地（購入してから売却するまで居住の用に供していた）を譲渡した場合の譲渡所得に係る所得税額として、正しいものはどれか。なお、この譲渡は国や地方公共団体等へのものではなく、収用交換によるものでもない。また、<資料>に記載のない事項については、一切考慮しないこととする。

#### <資料>

- ・ 購入日：平成14年 8月20日
- ・ 売却日：平成23年10月25日
- ・ 課税譲渡所得金額：400万円（3,000万円特別控除後の金額）

#### [土地建物等に係る税率]

課税短期譲渡所得に対する税率	30%
課税長期譲渡所得に対する税率	15%
10年超所有の居住用財産の軽減税率	10%


1. 120万円
2. 60万円
3. 40万円

【第4問】下記の（問8）～（問11）について解答しなさい。

問8

唐沢翔太さんが加入している生命保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、翔太さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号 ○○△△××□□	定期保険特約付終身保険		
保険契約者	唐沢 翔太 様	保険契約者印	◇契約日（保険期間の始期） 2011年3月1日 （平成23年）
被保険者	唐沢 翔太 様 契約年齢40歳 1971（昭和46）年2月10日生まれ 男性		◇主契約の保険期間 終身
受取人	（死亡保険金） 唐沢 裕美 様（妻）		◇主契約の保険料払込期間 60歳払込満了
◆ご契約内容		◆お払込みいただく合計保険料	
終身保険金額（主契約保険金額） 500万円 定期保険特約保険金額 1,500万円 生活保障特約年金年額 200万円 特定疾病保障定期保険特約保険金額 300万円 傷害特約保険金額 100万円 災害入院特約〔本人・妻型〕 入院5日目から 日額5,000円 疾病入院特約〔本人・妻型〕 入院5日目から 日額5,000円 不慮の事故や疾病により所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて（入院給付金日額の10倍・20倍・40倍）手術給付金を支払います。 生活習慣病入院特約 入院5日目から 日額5,000円 リビングニーズ特約 ※妻の場合は、本人の給付金の6割の日額となります。 生活保障特約の年金種類 5年確定年金		毎回 ××,×××円 [保険料払込方法（回数）] 団体月払 ◇社員配当金支払方法 利息をつけて積立 ◇特約の払込期間および保険期間 10年	


唐沢翔太さんが平成24年中に、脳卒中で死亡（急死）した場合に支払われる死亡保険金は、一時金合計（ア）である。また、年金年額200万円が5年間支払われる。

1. 2,100万円
2. 2,300万円
3. 2,400万円

問9

多川健一さんが加入しているガン保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、健一さんはこれまでに＜資料＞の保険から給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号（〇〇〇）△△△△△		保険種類 ガン保険（愛称 ****）	
保険契約者	多川 健一 様	保険契約者印 	◇契約日（保険期間の始期） 2008年（平成20年） 12月1日
被保険者	多川 健一 様 契約年齢27歳 昭和56年11月15日生まれ 男性		
受取人	（給付金） 被保険者 様	分割割合 10割	◇主契約の保険期間 終身  ◇主契約の保険料払込期間 終身払込
	（死亡給付金） 多川 浩子 様（妻）		

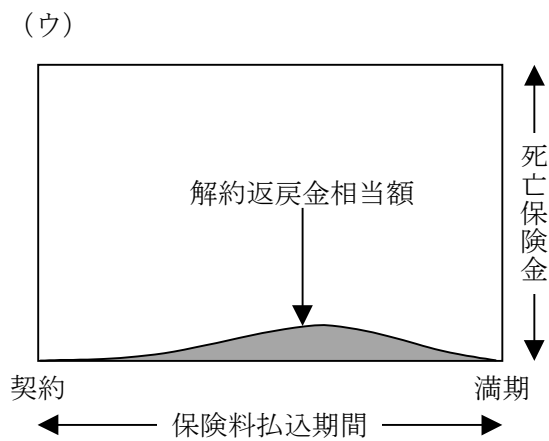
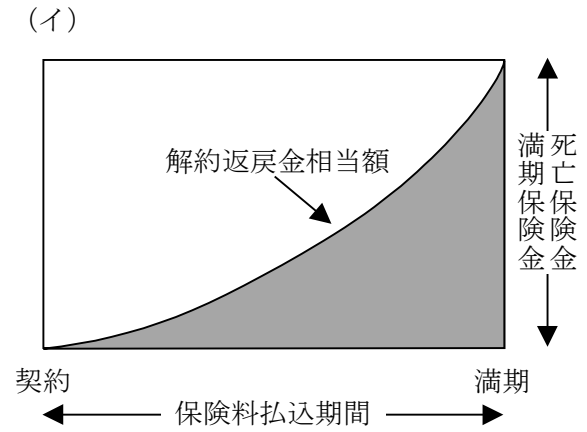
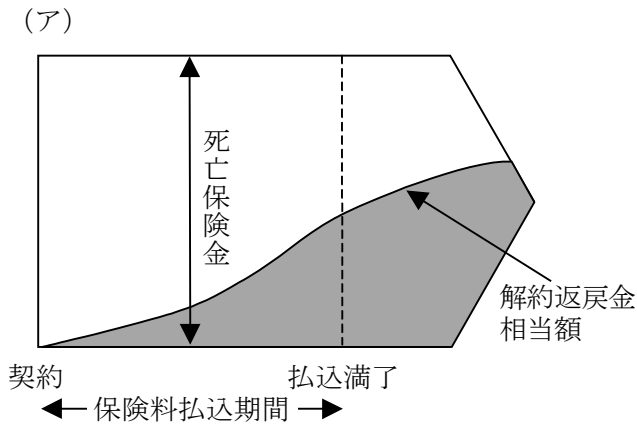
◆ご契約内容		◆お払込みいただく合計保険料	
主契約 [本人型]	ガン診断給付金	初めてガンと診断されたとき	100万円
	ガン入院給付金	1日につき	日額 10,000円
	ガン通院給付金	1日につき	日額 5,000円
	ガン手術給付金	1回につき	手術の種類に応じて入院給付金 日額の10倍・20倍・40倍
	死亡給付金	入院給付金日額の50倍（ガン以外の死亡の場合は、 入院給付金日額の10倍）	
		毎回	×, ×××円
		[保険料払込方法] 月払	

多川健一さんが平成24年中に初めてガン（悪性新生物）と診断され、その後100日間入院し給付倍率20倍の手術（1回）を受けた場合、支払われる給付金の合計額は（ア）である。

1. 200万円
2. 220万円
3. 250万円

問10

下記の(ア)～(ウ)のイメージ図は、定期保険、終身保険、養老保険のいずれかを表したものである。下記のイメージ図に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。



1. (ア)は「養老保険」に関するイメージ図である。
2. (イ)は「終身保険」に関するイメージ図である。
3. (ウ)は「定期保険」に関するイメージ図である。

### 問 1 1

山岸拓也さんが契約している普通傷害保険の主な内容は、下記<資料>のとおりである。次の1～3のケース（該当者は山岸拓也さんである）のうち、保険金の支払い対象となるケースはどれか。なお、1～3のケースはいずれも保険期間中に発生したものである。また、<資料>に記載のない事項については、一切考慮しないこととする。

#### <資料>

保険契約	普通傷害保険
保険期間	1年間
保険契約者	山岸拓也
被保険者	山岸拓也
死亡・後遺障害保険金額	5,000万円
入院保険金日額	5,000円
通院保険金日額	3,000円

1. レストランで食べた料理が原因で、細菌性食中毒を起こして入院した。
2. 地震により落ちてきた花瓶で頭にケガをして通院した。
3. 休日に行ったバレーボールの試合中にボールが中指に当たり、骨折して通院した。

【第5問】下記の（問12）について解答しなさい。

問12

吉田恵子さんは、平成23年12月に養老保険の満期保険金を受け取った。この養老保険の内容が下記<資料>のとおりである場合、次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる金額（計算式含む）の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、平成23年中には、この満期保険金のほかに一時所得に該当する所得はないものとする。また、記載のない事項については、一切考慮しないこととする。

<資料>

保険契約者（保険料負担者）	吉田恵子
被保険者	
満期保険金受取人	
保険料払込方法	月払い
満期保険金額	500万円
支払保険料総額	300万円

吉田恵子さんの平成23年分の所得税の計算上、一時所得の金額は（ア）、総所得金額に算入されるべき金額は（イ）である。

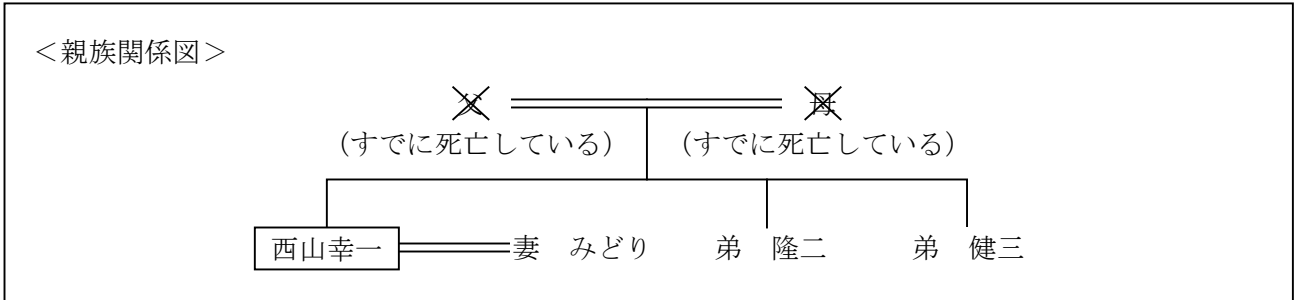
- 1.（ア） $500万円 - 300万円 = 200万円$   
（イ） $200万円 - 50万円 = 150万円$
- 2.（ア） $(500万円 - 300万円) - 50万円 = 150万円$   
（イ） $150万円 \times 1/2 = 75万円$
- 3.（ア） $(500万円 - 300万円) \times 1/2 = 100万円$   
（イ） $100万円 - 50万円 = 50万円$



【第6問】下記の（問13）、（問14）について解答しなさい。

問13

平成23年12月20日に相続が開始された西山幸一さん（被相続人）の＜親族関係図＞が下記のとおりである場合、民法上の相続人および法定相続分の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については、一切考慮しないこととする。

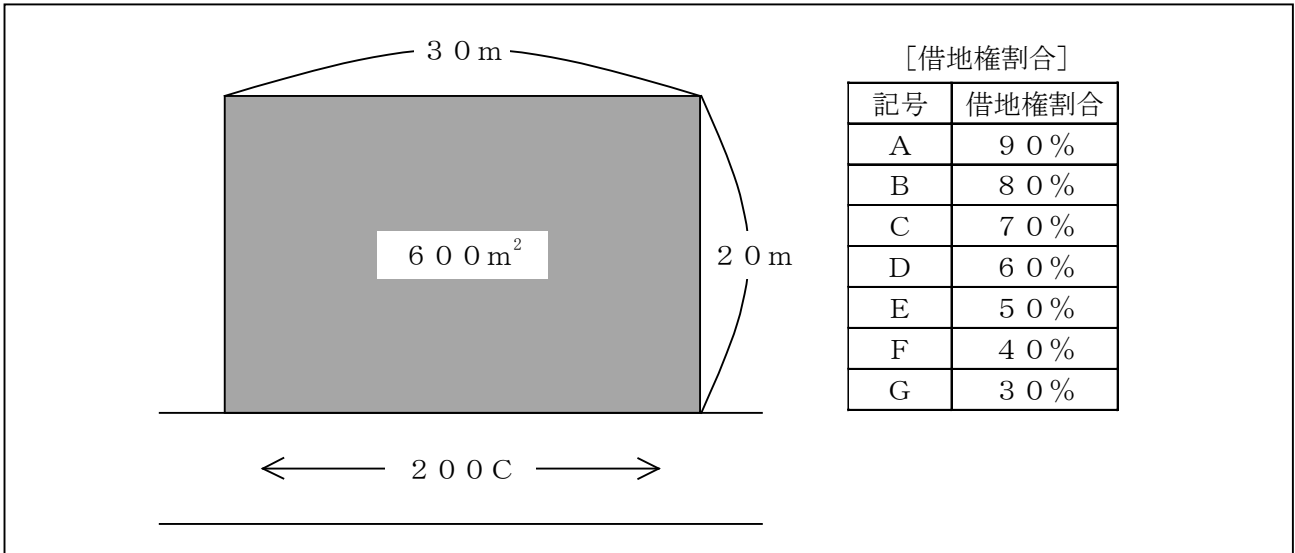


- |        |     |    |     |    |     |
|--------|-----|----|-----|----|-----|
| 1. みどり | 2/3 | 隆二 | 1/6 | 健三 | 1/6 |
| 2. みどり | 3/4 | 隆二 | 1/8 | 健三 | 1/8 |
| 3. みどり | 1   | 隆二 | 0   | 健三 | 0   |

問 14

下記<資料>の宅地（貸宅地）について、路線価方式による相続税評価額として、正しいものはどれか。なお、奥行価格補正率は1.0である。また、記載のない事項については、一切考慮しないこととする。

<資料>



※貸宅地とは、借地権の設定されている宅地をいう。

1. 36,000千円
2. 84,000千円
3. 120,000千円

【第7問】下記の（問15）～（問20）について解答しなさい。

<設例>

尾形宗一郎さんは、株式会社L Sに勤める会社員である。宗一郎さんは、定年退職（60歳）を3年後に控え、今後の生活設計等について考えようと思い、ファイナンシャル・プランナー（FP）で税理士でもある伊達さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも平成24年1月1日現在のものである。

<家族構成（同居親族）>

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業
尾形 宗一郎	本人	昭和29年11月 3日	57歳	会社員
曜子	妻	昭和34年 7月15日	52歳	専業主婦
薫	長男	平成 元年 4月22日	22歳	学生
准一	二男	平成 3年 6月 9日	20歳	学生

<保有財産（時価）>

（単位：万円）

金融資産	
普通預金	600
定期預金	2,000
上場株式	420
生命保険（解約返戻金相当額）	320
不動産	
土地（自宅敷地）	2,500
建物（自宅家屋）	800
その他動産等	240

<負債残高>

住宅ローン（自宅）：700万円（債務者は宗一郎さん、団体信用生命保険付き）

自動車ローン       ： 80万円（債務者は宗一郎さん）

<定年退職時>

退職一時金として、勤務先より2,400万円が支給される予定。

<その他>

上記以外については、各設問において特に指定のない限り一切考慮しないこととする。

問 15

F P の伊達さんは、尾形家のバランスシートを作成した。下表の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、＜設例＞に基づいて解答することとし、＜設例＞に記載のある情報以外の情報については一切考慮しないこととする。

＜尾形家のバランスシート＞

（単位：万円）

[資産]		[負債]	
金融資産		住宅ローン	×××
普通預金	×××	自動車ローン	×××
定期預金	×××	負債合計	×××
上場株式	×××		
生命保険（解約返戻金相当額）	×××		
不動産		[純資産]	(ア)
土地（自宅敷地）	×××		
建物（自宅家屋）	×××		
その他動産等	×××		
資産合計	×××	負債・純資産合計	×××

1. 6,100（万円）
2. 6,880（万円）
3. 7,660（万円）

問 16

宗一郎さんは地震への備えのひとつとして、地震保険に加入している。地震保険に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 地震保険の基本料率は、建物の構造と所在地によって決まる。
2. 地震保険は、住宅総合保険などの火災保険契約（主契約）の有無にかかわらず、単独で契約することができる。
3. 所得税と住民税の地震保険料控除の控除限度額は、所得税については10万円、住民税については5万円である。

### 問 17

宗一郎さんには、定年退職時に退職一時金 2,400 万円が支給される見込みである。この場合の退職所得の金額を求める計算式に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。なお、宗一郎さんの勤続年数は 38 年とし、障害者になったことに基因する退職ではないものとする。

<参考：退職所得控除額の求め方>

勤続年数	退職所得控除額
20 年以下	勤続年数 × 40 万円 (最低 80 万円)
20 年超	800 万円 + 70 万円 × (勤続年数 - 20 年)

1. 2,400 万円 - 2,060 万円
2. 2,400 万円 - (2,060 万円 × 1/2)
3. (2,400 万円 - 2,060 万円) × 1/2

### 問 18

宗一郎さんは、退職金の一部を老後の生活資金に充てようと思っている。仮に、1,200 万円を年利 1% で複利運用しながら 20 年間で均等に取崩すこととした場合、毎年の生活資金に充てることができる金額として、最も適切なものはどれか。なお、下記<資料>の 3 つの係数の中から最も適切な係数を選択して計算することとし、解答に当たっては、万円未満を四捨五入することとする。また、税金や記載のない事項については一切考慮しないこととする。

<資料：係数早見表（年利 1.0%）>

	現価係数	減債基金係数	資本回収係数
20 年	0.8195	0.0454	0.0554

※記載されている数値は正しいものとする。

1. 49 万円
2. 54 万円
3. 66 万円

### 問 19

宗一郎さんは、会社の定期健康診断で胃腸の異常を指摘され、平成23年10月に3週間ほど入院して治療を受けた。その際の病院への支払いが高額であったため、宗一郎さんは健康保険の高額療養費制度によって払戻しを受けたいと考え、FPの伊達さんに相談をした。平成23年10月の健康保険適用分の自己負担額が24万円（総医療費80万円）であった場合、高額療養費制度により払戻しを受けることができる金額として、正しいものはどれか。なお、宗一郎さんは全国健康保険協会管掌健康保険の被保険者で、所得区分は「一般」である。

< 70歳未満の者：医療費の自己負担限度額（1ヵ月当たり） >

所得区分	医療費の自己負担限度額
上位所得者	150,000円 + (総医療費 - 500,000円) × 1%
一般	80,100円 + (総医療費 - 267,000円) × 1%
低所得者	35,400円

※多数該当については考慮しない。

1. 154,570円
2. 87,000円
3. 85,430円

### 問 20

宗一郎さんは、60歳で勤務先を退職した後も、任意継続被保険者として健康保険の被保険者の資格を継続したいと考えている。全国健康保険協会管掌健康保険の任意継続被保険者に関する次の記述の下線部（ア）～（ウ）のうち、最も適切なものはどれか。

資格喪失日の前日まで （ア） 通算して6ヵ月以上被保険者であった人は、資格喪失日から起算して20日以内に申出をすることにより、退職後も引き続き （イ） 3年間、健康保険の被保険者になることができる。なお、保険料は （ウ） 全額自己負担となる。

1. 下線部（ア）
2. 下線部（イ）
3. 下線部（ウ）